

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—いろいろやってみる意味—

NO. 79



クルマで出かけるとき、道を覚えなくなりましたねえ。以前は、少し遠くに出かける前には地図で下調べをして、大よその時間を計算して、何時に出ようか考えていました。(それも楽しかった)でも今は、いいとこ、事前にナビで検索して到着時間を計算してもらい、何時に出るか決めるくらいです。道中も、どの道を進めばよいか、どこの信号を曲がるのかなんて、あまり考えずに「300メートル先を右折です」の声に、ハイハイと応じるだけ。とてもラクなのですが、何かが鈍っているような気がします。

先日、放デイでクリスマスリースを作りました。少し早いクリスマス気分です。制作の一過程にハサミで丸い形を切り抜く作業がありました。日頃から何かを作るのが好きな子にとっては、慣れた作業のひとつだったようですが、なかには、できないわけではないのですが、少し四苦八苦している子の姿もありました。最近、ハサミを使っていないようでした。

ハサミを使うのがあまり得意でなかったり、制作自体を好まなかったりする子は、自分からそれを選んで取り組むことはしないでしょう。ハサミで丸い形を切れないと、生活にとっても支障を来してしまう、なんてこともないですから、自然と機会は減っていきます。

ところで、ハサミで丸い形を切るって、どんな作業でしょうね。ハサミの操作自体もそうですが、『線に沿って切る』『曲線に刃を合わせていく』『ハサミで切りながら、反対の手で紙を回す』『手元を見続ける』『ゆっくり』『姿勢を保ち続ける』といったことの組み合わせです。何気ない作業ですが、いろいろな力が一度に求められます。ハサミで丸い形を切れるようになったから、いろいろな力が付いてきたのか。それとも、いろいろな力が付いてきたから、ハサミも上手になったのか、どちらが先かはよくわかりませんが、丸い形にハサミを使って切ることで、こんな力が養えるのだと思えば、とても貴重な時間ですね。そして、ハサミだけでなく、他のことの育ちにも影響してきます。いろいろな経験をしていくことで、その子の全体を育てていくのです。

ちなみに、放デイの取り組みの中で、2回同じクリスマスリースを作った子もいます。2回目は、やはり1回目よりも、ハサミの使い方が上手になり、切った丸の完成度が上がっている子が多かったです。思い出したのかコツをつかんだのか、上達してくると楽しくなってきます。もうひとつ作りたくなるものですし、後でもまたやってみたくなるものです。上達の好循環が生まれていきます。そして、そんな場面でのポイントが2つあります。ひとつは、少し難易度を下げて、必ず「できた」「やった」で終わることです。そしてもうひとつは、上手いかならずに懲りてしまうことのないようにすること。懲りてしまうと機会は確実に遠のきます。小さな完成に大きなOKを出していくことです。そうすれば、自然と自分で難易度を上げていきます。自分で上げたハードルは越えやすいですからね。

誰でも苦手なことは避け気味になるものです。そして、日常の中で、やらなくても済んでしまうようにすることは、それほどむずかしいことではないかもしれません。でも、楽しい雰囲気の中で、みんなと楽しみながらいろいろやってみると、広がっていくことはたくさんあると思います。

今度、地図を買ってみようと思います。出掛ける前の楽しさを膨らませてみます。(R4. 12) K